

2. 調査結果の概要

(1) 年間の河川空間利用者総数

全国109の一級水系の年間河川空間利用者総数の推計は、約1億8千万人

全国109の一級水系直轄管理区間(ダム区間を除く、約8.6千km)の年間河川空間利用者総数の推計は約1億8千万人であり、直轄管理区間1kmあたりでは約2万人でした。

前回の調査を行った平成9年度と比較すると、若干減少していますが、ほぼ横ばい傾向という結果となりました。

表2 年間河川空間利用者総数(万人)

地方名	平成5年度 年間利用者総数	平成9年度 年間利用者総数	平成12年度 年間利用者総数
北海道	635	848	614
東北	928	1,200	994
関東	8,347	8,243	7,356
北陸	777	914	608
中部	1,728	2,353	2,799
近畿	3,699	2,392	3,080
中国	1,118	828	1,079
四国	459	473	386
九州	1,171	1,094	1,103
全国	18,863	18,346	18,018

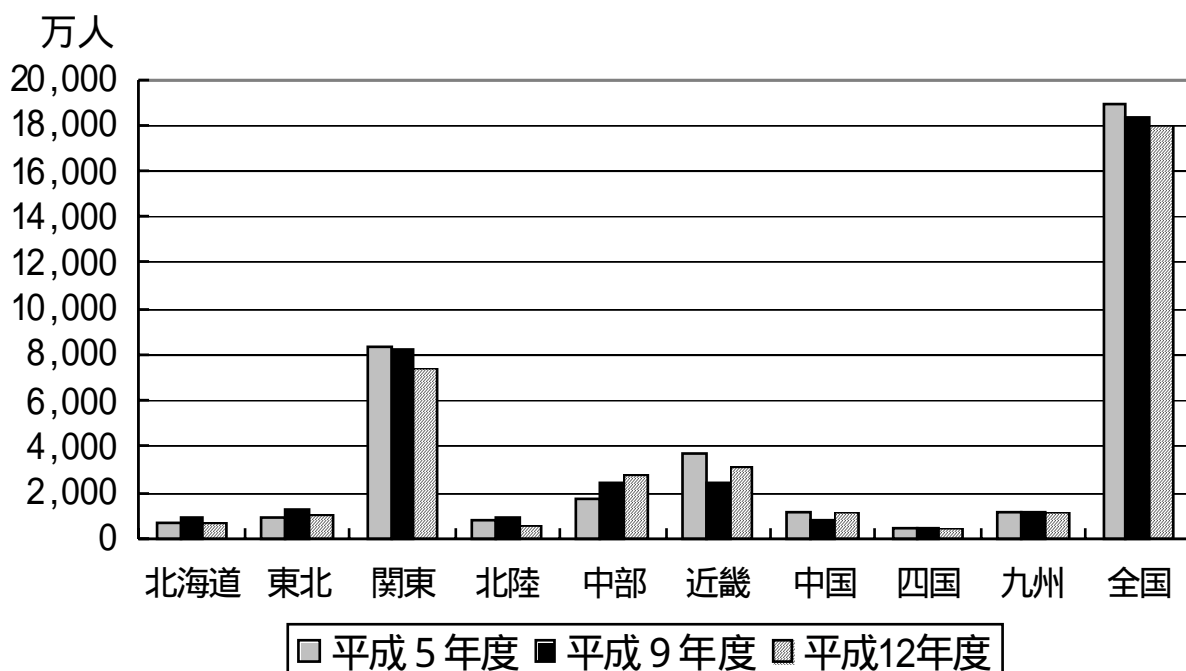


図2 地方別年間河川空間利用者総数

(2) 水系別の年間河川空間利用者総数ランキング

水系別の年間河川空間利用者総数の第1位は、荒川（関東）

年間河川空間利用者総数の最も多い水系は、前回調査（平成9年度実施）の利根川（関東）に替わり荒川（関東）でした。以下、2位・淀川、3位・利根川、4位・多摩川、5位・木曽川の順です。

また、直轄管理区間延長あたりの年間河川空間利用者総数が最も多い水系は多摩川で、以下、2位・荒川（関東）、3位・相模川、4位・矢作川、5位・淀川の順です。

表3 水系別の年間利用者総数ランキング（万人）

順位	平成5年度調査		平成9年度調査		平成12年度調査	
1位	荒川（関東）	3,366	利根川（関東）	2,784	荒川（関東）	2,532
2位	淀川（近畿）	3,089	荒川（関東）	2,588	淀川（近畿）	2,409
3位	利根川（関東）	2,927	多摩川（関東）	2,090	利根川（関東）	2,165
4位	多摩川（関東）	1,384	淀川（近畿）	1,757	多摩川（関東）	1,707
5位	木曽川（中部）	673	木曽川（中部）	811	木曽川（中部）	888

表4 直轄管理区間延長あたりの水系別の年間利用者総数ランキング（万人/km）

順位	平成5年度調査		平成9年度調査		平成12年度調査	
1位	荒川（関東）	23.3	多摩川（関東）	26.6	多摩川（関東）	21.7
2位	多摩川（関東）	17.6	荒川（関東）	17.9	荒川（関東）	17.5
3位	淀川（近畿）	13.3	鶴見川（関東）	12.8	相模川（関東）	17.1
4位	相模川（関東）	10.9	相模川（関東）	10.9	矢作川（中部）	11.0
5位	鶴見川（関東）	8.8	淀川（近畿）	7.5	淀川（近畿）	10.3

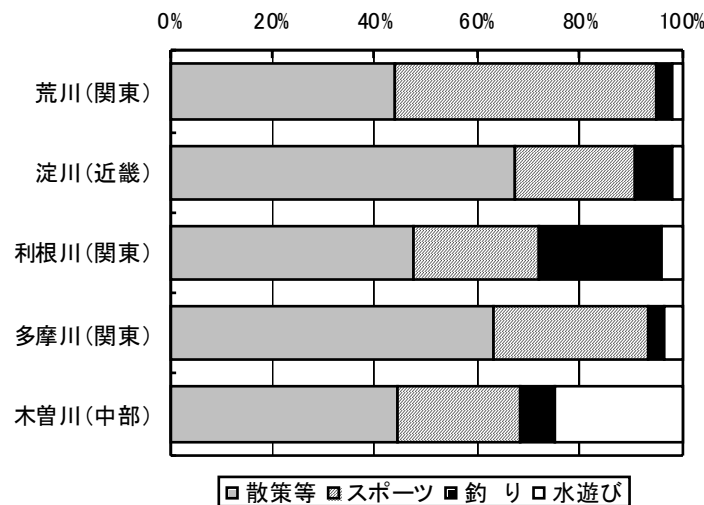


図3 年間利用者総数ベスト5水系の利用形態別内訳（平成12年度）

(3) 利用形態別の年間河川空間利用者数

利用形態別の年間河川空間利用者数は、散策等が55%で最多

利用形態別の年間河川空間利用者数の内訳では、散策等が55%と約半数を占め、次いでスポーツが29%であり、釣りとは水遊びはそれぞれ10%に満たない状況です。平成9年度調査と比較して、スポーツ・散策等の占める割合が若干増加、釣り・水遊びの割合が若干減少していますが、全体的な傾向は変わっていません。

表5 利用形態別の年間河川空間利用者数(万人)

地方	年度	合計	利用形態別内訳							
			散策等	スポーツ	釣り	水遊び				
北海道	平成5年度	635	374	59%	196	31%	32	5%	33	5%
	平成9年度	848	470	55%	293	35%	45	5%	40	5%
	平成12年度	614	340	55%	211	34%	28	4%	35	6%
東北	平成5年度	928	583	63%	153	16%	91	10%	101	11%
	平成9年度	1,200	867	72%	123	10%	110	9%	100	8%
	平成12年度	994	696	70%	118	12%	77	8%	103	10%
関東	平成5年度	8,347	4,887	59%	2,152	26%	906	11%	402	5%
	平成9年度	8,250	4,244	51%	2,462	30%	1,146	14%	398	5%
	平成12年度	7,356	3,651	50%	2,719	37%	735	10%	251	3%
北陸	平成5年度	777	453	58%	196	25%	88	11%	40	5%
	平成9年度	914	477	52%	238	26%	127	14%	72	8%
	平成12年度	608	368	61%	112	18%	73	12%	55	9%
中部	平成5年度	1,728	831	48%	517	30%	160	9%	220	13%
	平成9年度	2,353	1,164	49%	610	26%	190	8%	389	17%
	平成12年度	2,799	1,397	50%	815	29%	146	5%	440	16%
近畿	平成5年度	3,699	2,194	59%	902	24%	383	10%	220	6%
	平成9年度	2,392	1,461	61%	455	19%	331	14%	145	6%
	平成12年度	3,080	1,965	64%	761	25%	275	9%	79	3%
中国	平成5年度	1,118	536	48%	264	24%	162	14%	156	14%
	平成9年度	828	406	49%	110	13%	180	22%	132	16%
	平成12年度	1,079	681	63%	196	18%	80	7%	123	11%
四国	平成5年度	448	170	38%	145	32%	33	7%	111	25%
	平成9年度	473	214	45%	119	25%	44	9%	96	20%
	平成12年度	386	157	41%	108	28%	46	12%	75	20%
九州	平成5年度	1,171	575	49%	304	26%	200	17%	92	8%
	平成9年度	1,094	592	54%	175	16%	210	19%	117	11%
	平成12年度	1,103	570	52%	229	21%	189	17%	115	10%
全国	平成5年度	18,863	10,602	56%	4,830	26%	2,056	11%	1,376	7%
	平成9年度	18,353	9,895	54%	4,585	25%	2,383	13%	1,489	8%
	平成12年度	18,018	9,826	55%	5,268	29%	1,649	9%	1,275	7%

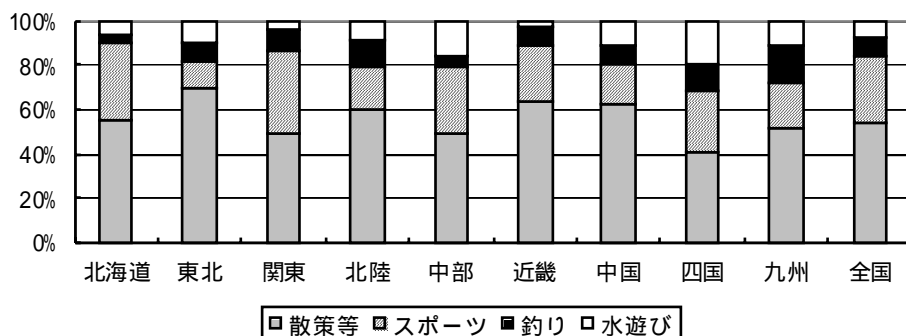


図4 各地方毎の利用形態別年間利用者数の内訳(平成12年度)

(4) 水辺の代表的な活動の水系別利用ランキング

水辺に近づき、川自体を利用するという水辺の代表的な活動としては、前述の(3)利用形態別の年間河川空間利用者数のうち、水遊びおよび釣りがあげられます。

両活動ともに、本来川が有している良好な水辺環境に大きく関わりがあり、それに加え自然度の高い水系がどれだけ利便性の良いところに位置しているかにより、利用者数の多い少ないが決まります。

年間を通した水遊びについて

年間を通した水遊びの利用が最も多い水系は木曽川であり、以下、2位・利根川、3位・多摩川、4位・天竜川、5位・太田川と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は相模川になりました。ベスト5にランクづけされる川は、いずれも比較的¹地方都市近郊を流れる河川であり、自然度と利便性の調和していることが水遊び利用の盛んな状況につながっていると思われます。

表6 水遊びの年間利用者数(万人)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	利根川(関東) 194	木曽川(中部) 240	木曽川(中部) 221
2位	淀川(近畿) 152	利根川(関東) 173	利根川(関東) 90
3位	木曽川(中部) 108	多摩川(関東) 104	多摩川(関東) 59
4位	荒川(関東) 89	淀川(近畿) 81	天竜川(中部) 56
5位	太田川(中国) 84	太田川(中国) 61	太田川(中国) 51

表7 直轄管理区間延長あたりの水遊びの年間利用者数(万人/km)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	肱川(四国) 1.9	相模川(関東) 1.4	相模川(関東) 2.2
2位	相模川(関東) 1.5	多摩川(関東) 1.3	仁淀川(四国) 1.1
3位	多摩川(関東) 0.8	仁淀川(四国) 1.1	櫛田川(中部) 1.1
4位	太田川(中国) 0.7	木曽川(中部) 1.0	雲出川(中部) 1.0
5位	淀川(近畿) 0.7	豊川(中部) 0.7	木曽川(中部) 0.9

夏の水遊び利用について

季節感のある活動としては、夏における水遊びがあげられますが、その利用者数を見ると、利根川が最も多く、以下、2位・木曽川、3位・太田川、4位・多摩川、5位・仁淀川と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は仁淀川になりました。以下、2位・相模川、3位・物部川、4位・大分川、5位・櫛田川の順です。

第1位の仁淀川では高水敷にはほとんど施設がなく、水質が良く豊富な水があることから、特に夏においては、水泳や水遊び、河原でのキャンプを中心とした利用が盛んに行われています。

表8 夏の水遊びの利用者数(人)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	利根川(関東) 42,408	木曽川(中部) 59,598	利根川(関東) 30,733
2位	木曽川(中部) 15,503	利根川(関東) 35,107	木曽川(中部) 22,364
3位	荒川(関東) 12,311	淀川(近畿) 15,276	太田川(中国) 12,291
4位	北上川(東北) 10,962	太田川(中国) 14,000	多摩川(関東) 9,649
5位	多摩川(関東) 10,087	仁淀川(四国) 10,054	仁淀川(四国) 9,398

表9 直轄管理区間延長あたりの夏の水遊びの利用者数(人/km)

順位	平成5年度調査	平成9年度調査	平成12年度調査
1位	相模川(関東) 220	仁淀川(四国) 388	仁淀川(四国) 363
2位	由良川(近畿) 142	木曽川(中部) 240	相模川(関東) 268
3位	多摩川(関東) 128	吉井川(中国) 240	物部川(四国) 166
4位	豊川(中部) 114	安倍川(中部) 181	大分川(九州) 165
5位	常願寺川(北陸) 91	豊川(中部) 157	櫛田川(中部) 155

釣りについて

釣りの利用が最も多い水系は利根川（常陸利根川を中心）であり、以下、2位・淀川、3位・荒川（関東）、4位・木曽川、5位・多摩川と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は水遊び同様、相模川でした。このことから、直轄管理区間延長あたりに着目した場合の水辺の代表的な活動（水遊びおよび釣り）が最も盛んな川は、相模川と位置づけることができます。

また、5位以内に大都市を貫流する淀川や多摩川が上位にランキングされ、水遊びに比べ、より利便性の高い水系において、利用者が多いという傾向がみられます。

表10 釣りの年間利用者数（万人）

順位	平成5年度調査		平成9年度調査		平成12年度調査	
1位	利根川(関東)	611	利根川(関東)	701	利根川(関東)	512
2位	淀川(近畿)	268	淀川(近畿)	186	淀川(近畿)	181
3位	多摩川(関東)	89	荒川(関東)	171	荒川(関東)	87
4位	荒川(関東)	87	多摩川(関東)	151	木曽川(中部)	61
5位	木曽川(中部)	77	木曽川(中部)	82	多摩川(関東)	57

表11 直轄管理区間延長あたりの釣りの年間利用者数（万人/km）

順位	平成5年度調査		平成9年度調査		平成12年度調査	
1位	相模川(関東)	2.2	多摩川(関東)	1.9	相模川(関東)	1.6
2位	大和川(近畿)	1.2	鶴見川(関東)	1.9	物部川(四国)	1.0
3位	淀川(近畿)	1.2	相模川(関東)	1.5	淀川(近畿)	0.8
4位	多摩川(関東)	1.1	荒川(関東)	1.2	多摩川(関東)	0.7
5位	鶴見川(関東)	0.9	高梁川(中国)	1.1	利根川(関東)	0.7

(5) 利用者の満足度

全国の河川空間利用者の満足度は、約 60%

全国約 800 地点で約 8,000 人の河川空間利用者を対象に行ったアンケート調査結果をみると、「今の水辺をどのように思われますか」という河川に対する満足度（5段階評価、満足している、まあ満足している、どちらともいえない、やや不満である、不満である）に関する質問に対して、「満足している」「まあ満足している」と約 60% の人が答えています。

表 1 2 満足度のアンケート調査結果

	満足している	まあ満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である	合計
	満足度			不満度		
平成 5 年度調査	1,111 人 (21%)	2,119 人 (40%)	976 人 (18%)	746 人 (14%)	324 人 (6%)	5,276 人
	(61%)			(21%)		
平成 9 年度調査	1,480 人 (22%)	2,722 人 (40%)	1,219 人 (18%)	976 人 (14%)	398 人 (6%)	6,795 人
	(62%)			(20%)		
平成 12 年度調査	1,864 人 (24%)	2,813 人 (36%)	1,543 人 (20%)	1,008 人 (13%)	522 人 (7%)	7,750 人
	(60%)			(20%)		

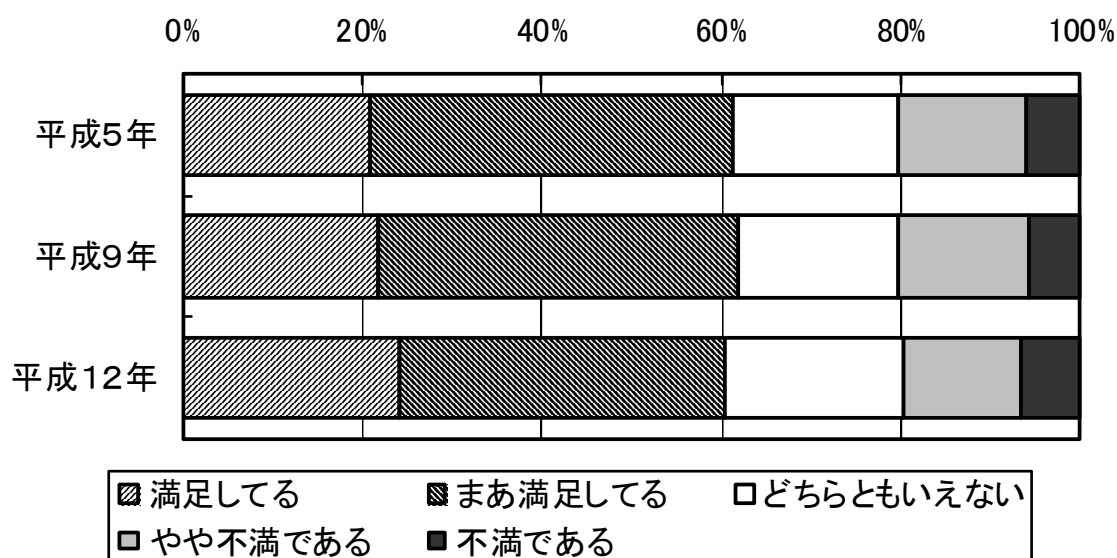


図 5 満足度のアンケート調査結果

(6) 今後どのようなことをやりたいかランキング

今後水辺で最もやりたいことは、散策・休息等

利用者アンケート調査結果をみると、「今後水辺でどのようなことをやりたいですか」という質問に対して、最も多かった利用目的としては、「散策・休息・その他(写真撮影、楽器演奏など)」でした。上位5位を占める項目は、前回調査(平成9年度)と同じで、以下、2位・“ピクニック、キャンプ”、3位・“釣り・魚とり”、4位・“スポーツ(軽い運動を含む)”、5位・“水遊び”の順です。

表13 今後水辺でやりたいことランキング

順位	平成5年度調査		平成9年度調査		平成12年度調査	
1位	散策・休息・その他	1,778人 19.5%	ピクニック、キャンプ	2,337人 20.4%	散策・休息・その他	2,516人 20.6%
2位	ピクニック、キャンプ	1,606 17.6	散策・休息・その他	2,113 18.4	ピクニック、キャンプ	2,396 19.6
3位	スポーツ(軽い運動を含む)	1,428 15.6	釣り・魚とり	1,861 16.2	釣り・魚とり	1,782 14.6
4位	釣り・魚とり	1,407 15.4	スポーツ(軽い運動を含む)	1,498 13.1	スポーツ(軽い運動を含む)	1,543 12.6
5位	祭り・伝統行事・花火・花見	705 7.7	水遊び	871 7.6	水遊び	903 7.4
...						
合計		9,127人 100.0%		11,476人 100.0%		12,202人 100.0%

備考) アンケート対象者人数は約8,000人で、複数回答あり。

今後水辺でやりたいこと(活動)の集計項目

1. 水泳
2. 水遊び
3. 釣り・魚とり
4. 水上スポーツ(ウインドサーフィン、ボートなど)
5. 生物観察(昆虫、水生生物、植物、鳥)
6. ピクニック、キャンプ
7. スポーツ(軽い運動を含む)
8. ジョギング
9. 祭り・伝統行事・花火・花見
10. 観光(探勝、遊覧船を含む)
11. 散歩・休憩・その他(写真撮影、楽器演奏など)
12. その他(親水活動以外;農作業など)